

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	観光施設整備事業			事業コード	3156
所属コード	154000	課等名	産業振興課	係名	農政商工担当
課長名	畠山 栄幸	担当者名	熊谷 敬太	内線番号	243
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の推進	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	7-1-3-1-1 観光施設整備事業			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

岩洞湖家族旅行村，岩手路中継基地トイレ，啄木記念館前トイレ，サクラパーク姫神等の維持管理を行うもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

玉山村当時から継続。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

家族旅行村については岩手県の施設を盛岡市が指定管理者として維持管理しているものがあるが，施設の老朽化が進み，修繕等について県へ繰り返し要望している。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

玉山区内の観光施設。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 岩洞湖家族旅行村面積	ha	47	47	47	47	47
B 岩手路中継基地トイレ数	棟	1	1	1	1	1
C 石川啄木記念館前トイレ数	棟	1	1	1	1	1

D サクラパーク姫神面積	ha	37	37	37	37	37
--------------	----	----	----	----	----	----

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

岩洞湖家族旅行村，岩手路中継基地トイレ，啄木記念館前トイレ，サクラパーク姫神等の維持管理業務。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 岩洞湖家族旅行村管理業務委託数	件	7	7	7	7	7
B 啄木記念館前トイレ管理業務委託数	件	1	1	1	1	1
C オオヤマザクラまつり開催回数	回	0	1	1	1	1

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

施設を適切に維持管理することにより，観光客の利便性を高め，玉山区の観光の魅力向上・観光客の誘致拡大を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 外山早坂観光客入込数	■上げる □下げる □維持	人	132,408	137,669	144,443	145,000	152,423
B 石川啄木記念館入館者数	■上げる □下げる □維持	人	11,767	16,276	13,024	16,000	11,906
C オオヤマザクラまつり来場者数	■上げる □下げる □維持	人	-	500	1,200	1,200	1,200

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度実 績	24 年度実 績	25 年度実 績	26 年度計 画	26 年度実 績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	4,683	4,683	4,683	4,683	4,760
	③地方債	千円	0	0	0	0	0

	④一般財源	千円	5,592	5,717	5,451	6,017	5,559
	⑤その他(テントサイト使用料)	千円	472	550	726	400	674
	A 小計 ①～⑤	千円	10,747	10,950	10,860	11,100	10,993
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	3255	3255	3255	3255	3255
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	13,020	13,020	13,020	13,020	13,020
計	トータルコスト A+B	千円	23,767	23,970	23,880	24,120	24,013
		備考					

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

観光施設を整備し、観光客の利便性及び玉山区の魅力を向上させることは、地域資源をいかした観光振興・観光客誘致拡大という施策に結びつく。

② 市の関与の妥当性

観光施設の維持管理は玉山区及の魅力向上を目的としたものであり、営利を目的としたものではないため、市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

玉山区内の主要な観光施設を対象としており、多くの観光客の利便性に関わるものであるため、対象として妥当である。

④ 廃止・休止の影響

廃止・休止は観光客の利便性が著しく低下し、玉山区のイメージダウンにつながると思われる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

老朽化した施設の修繕を行うことにより、施設の安全性や観光客の利便性を高めることができ、玉山区の魅力が向上する。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

県内外不特定多数の観光客を対象とした施設の維持管理であるため、公平である。

(4) 効率性評価

事務費の低減や地元組織への業務委託等により、効率的な維持管理を行っている。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

定期的に観光施設の実態を把握し、緊急度及び重要度を勘案して計画的に整備・維持・修繕を図る。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

老朽化した施設の修繕の予算確保が課題であるが、必要な箇所を整理し、優先順位をつけ、効率的な修繕計画を立てながら施設修繕に努める。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

定期的に観光施設の実態を把握し、緊急度及び重要度を勘案して計画的に整備・維持・修繕により、継続して事業を進めてまいりたい。